

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひまわり		
○保護者評価実施期間	2025年11月4日	～	2025年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2025年11月4日	～	2025年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりに丁寧に寄り添い、願いやニーズを深く理解したうえで最善の支援を行っている	・打ち合わせやカンファレンスで情報を共有し、子どもの様子をその日のうちに報告して職員間で共通理解を深めながら、丁寧な観察をもとに安全に過ごせる環境づくりを行っている。担当に限らず全職員が多角的な視点で児童理解を共有し、一貫した支援を行っている。	・左記の時間を確保するために、業務効率化を図る ・職員の知識向上、研修への参加 ・担当以外のいろいろな事例検討への参加
2	職員間の円滑な連携と情報共有で安心できる支援体制を整えている	・毎日午前・午後のミーティングや都度のカンファレンス、振り返りなどで、児童やご家族の様子を共有し、支援方針を統一している。 ・職員同士で情報を迅速に共有し、声掛けで連携を高めながら、危険予測と環境調整によって安心して過ごせる場を整えている。	・ケースごとの支援経過を定期的に振り返る場を設け、アセスメントの質をさらに高める。 ・ICTツールの活用も視野にいれ、記録・共有の標準化を進めて情報伝達の精度を向上させる。 ・危険予測や環境チェックのルーティン化により、安全管理の専門性を強化する
3	保護者が相談しやすい雰囲気づくりを大切にし、信頼関係を築きながら安心して話せる支援体制を整えている	・保護者と普段からこまめに話す機会をつくり、子どもの成長や嬉しい出来事と一緒に共有している。保護者や子ども達の些細な変化にも気づき、適切なタイミングで声をかけている。 ・保護者からの相談や投げかけを最優先に受け止め、茶話会やペアレントトレーニングなどを通して安心して話せる関係づくりを進めている。	・ペアレントトレーニング、保護者面談を必要に応じて行い、保護者とも同じ思いで発達支援を行っていきけるような環境づくりをさらにすすめる。 ・通信でのスタッフ紹介や茶話会の開催により、直接会えない保護者とも関係づくりを進める。 ・スタッフ自身が環境ということ、自分を整えるための時間作りや研修への参加。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・外部への発信力 子どもに関わる周囲の人にも私たちの支援や取り組み・子どもの情報を知ってもらうことが子どもたちの支援に役立つと気づいた。	・必要性を感じてなかった。 ・関係機関との情報共有の機会が限られており、事業所の取り組みを十分に知ってもらえていなかったことが課題の背景にある。	・定期的な情報発信 (SNS・HPの工夫) ・関係機関と対話の場を設け、相互理解と連携の強化 ・情報発信の場を増やす (保健センターなどに働きかける・プレママ講座など) ・事業所連絡会への参加
2	・危険な環境設定の見落とし	・構造上の問題 ・大人主導ではなく、子ども自身が自分の過ごし方を模索、決定していけるような環境設定をしているため、環境が危険かどうかの判断がその都度必要であった。	・危険予測や環境チェックのルーティン化 ・同じ目線に偏らないよう、複数の職員が視点を変えて環境チェックを行う。
3	・低学年児童への支援	・スタッフの多くが保育分野を専門としており、幼児期から低学年の支援には強みがある一方で、高学年児童に必要な自立支援・学習支援・社会性の発達支援に関する専門性が不足している。また、高学年向けの活動プログラムや環境整備、研修機会が十分に確保できていないため。	・低学年児童への支援に特化した事業所として、さらに専門性を高める ・保護者が安心して次のステップにすすめるような環境と一緒に考えるための面談をおこなう。 ・他事業所への移行支援